

砥石に植物素材長寿命

県と春日井企業開発 環境やさしく

あいち産業科学技術総合センター産業技術センター（刈谷市）と、砥石製造販売会社・高蔵工業（春日井市）は25日、植物繊維から作った新素材「セルロースナノファイバー（CNF）」を原料に加えた工業用の砥石を開発したと発表した。製品寿命が従来品の1・9

倍に延びて、環境にもやさしいのが特長だという。

センターと同社が2014年度から3年間、協力して開発。同社が昨年度、県の新あいち創造研究開発補助金を活用して、製品化にこぎ着けた。センターと同社は、砥石にCNFを利用したのは、世界で初めてだ

セルロースナノファイバーを利用した砥石の試作品



としている。

砥石は、研磨機に設置して、自動車部品などの金属加工分野で使われる。弾力性に富むなどの特徴があるCNFを一定量加えることで砥石の耐久性が増し、製

品寿命が延びた。

また、削り用と仕上げ用の両方で使用可能で、作業の省力化も期待される。このほか、砥石の原料となる石油化学製品の使用量も半減でき、環境にやさしいという。同社は来年度から試作品の販売を始める予定。同社の担当者は「（自動車部品などの加工だけでなく）より多くの業界で活用してもらえれば」と話した。